



湧別町立ゆうべつ学園

学園だより

令和7年1月31日
(第12号)
校長 若松 征一

重点教育目標「仲間と共に 学びを創る 子ども」が育つ学園の創造

多様な仲間と共に育む、心やさしい思いやりのある子どもたち

新しい年を迎えました。保護者の皆様、そして地域の皆様におかれましても、清々しい新年を迎えることと心よりお慶び申し上げます。今年も引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本校では、「多様な人々と協働して学び続ける力」を基本理念として教育活動を進めております。年の初めにあたり、多様性の重要性について改めて考え直すために、マシュー・サイド著の『多様性の科学』を読みました。その中で紹介されている実験が非常に興味深いものでしたので、簡単にご紹介いたします。



アメリカの学校で行われた実験では、いくつかのグループに分かれて謎解きに挑戦しました。一つのグループは仲の良い友だちだけで、もう一つのグループは知らない人も混ざっていました。友だちだけのグループは話し合いがスムーズでしたが、みんな似たような考え方だったので、気づけないことが多く、正解が少なかったです。一方、知らない人もいるグループは意見がぶつかることもありましたが、いろいろな考えを出し合い、たくさんのアイデアが生まれました。このことから、違う考えを持つ人が集まると、もっと良い話し合いができることがわかりました。

本校でも、子どもたちの対話（学び合うこと）を大切にしています。対話の基本は「相手の話を丁寧に聴くこと」です。相手の話に耳を傾けることは、その人を大切にし、尊重することにつながります。そして、自分とは異なる考え方や価値観を受け入れたうえで、自分の意見を伝えることを通じて、互いに安心感や信頼関係が生まれます。

以前、私が民間企業で働いていたとき、上司から「話し合いはひらめきがいっぱい生まれる時間」と教えてもらいました。話し合いをする中で、自分と違う考え方を知ることができます。そして、それをきっかけに自分の考えを見直したり、新しいことに気づいたりします。いろいろな人の考えを大切にすることこそ、自分も成長できるし、お互いに学び合えるのです。

現代社会では、同じ考えをもつ人々とだけ関わろうとする傾向が強まっています。しかし、学校は「小さな社会」として、多様な個性を持つ子どもたちが集まり、一緒に学ぶ場です。得意なことや苦手なことが異なる子どもたちが集まり、お互いの個性を認め合い、多様性を生かすことが重要です。ゆうべつ学園では、保護者や地域の皆様と連携・協働しながら、より良い学校運営を目指して努力してまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

第25回海上保安庁図画コンクール表彰

第25回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクールで小学校低学年の部で3年生の坂東陽咲さんが、「海上保安協会北海道地方本部長賞」を受賞しました。令和7年1月24日に紋別海上保安部長が本学園をみえられ表彰状を渡されました。みんなが地元の海をきれいにしようと思ってもらえるよう、これからもたくさん絵を描いてほしいと激励をいただきました。



表彰後に紋別海上保安庁職員さんと記念撮影

いのちの授業



怪しい内容のSNSについて話し合う



命の誕生について話を聞く7年生

1月23日(木)、後期課程の生徒を対象に、紋別広域病院の助産師3名を招き、思春期の体の変化や命の誕生、SNSの危険について学びました。生徒たちは講師の話を中心して聞き、理解を深め自分の生活を見直す良い機会となりました。

つながる教育



高校の先生が行う乗り入れ授業に真剣に取り組む9年生

1月24日(金)と25日(土)に、湧別町で中高一貫教育推進の取組として、湧別高校と後期課程生徒の乗り入れ授業やリーダー研修が行われ、生徒たちは有意義な時間を過ごしました。



他校の生徒会と交流する生徒会メンバー

笑顔いっぱい！ 新1年生の1日入学

1月24日(金)、令和7年度入学予定の児童23名とその保護者を対象に1日入学を行いました。新1年生は、現1年生にサポートしてもらいながら「魚釣りゲーム」を楽しみ、学校生活の雰囲気



お兄さんお姉さんと一緒に授業を体験する新1年生

を体験しました。保護者には入学準備について説明し、理解を深めていただきました。



生徒会の活動を発表する生徒会書記局

2月の行事予定はこちらを読み取って下さい。

